

すべての世代が危機感を持ち始めている

徳島県

藤川 真紀

予想を上回る運動の盛り上がり

4月27日、徳島駅前でペンライト集会有ると聞いて参加してきた。組合運動に長く携わってきたが、社会を変えるためには労働組合の内輪だけの運動ではダメだろう。広く一般市民とどう関わっていくかということが自分の中で課題としてあり、そのためにもどんな人たちが来ているのか、どんな雰囲気なのか見に行こうという軽い気持ちでの参加だった。

現地に行くまでは、どうせ、いつものメンバーだけではないか、またはいつものメンバーにちよつとプラスされただけではないかと思いつながら、仲間数人で一緒に行った。しかし良い意味で予想を裏切られた。私たちが到着した時には、すでにかなりの人数が集まっていた（主催者発表は250人だったが、徳島駅前でこの人数が集まるのは相当のものだ）。

老若男女問わずそれぞれのペンライトが光っていて、アイドル等のライブやお祭りを見ているかのよう。タイムスケジュールやコールが書かれたパンフレットをもらい中を見ると、いつも運動の先頭に立ってくれている団体の名前はもちろんあったが、聞いたことがない団体の名前も並んでいた。こんな団体あったんかと正直びっくりしたと同時に、高校生や若い人、特に女性が多いことにも驚いた。

日頃、労働組合の行動に参加の声掛けをする中では、女性性は「家のことをしないといけないから」「子どもがいるから」と集会に誘ってもなかなか来てくれないことがままあるのだが、ここでは子どもと一緒に参加していたり、ペンライトを楽しそうに振ったりしているのを見てみると、この差は何だろうと考えさせられた。また、通行人の中にも立ち止まってパンフレットを見て「エッ、あのユーチューブとかで流れている人（菱山南帆子さん



徳島駅前にはかつてない熱気に包まれていた

のことだろう」がここにおるん？」という反応。自転車に乗った若そうな男性で、日頃はおそらく政治に関心があまりないのだろうと（失礼）思われる雰囲気の人だった。

デモ行動がSNSで広がっていることや、その良い効果が見えた瞬間だった。全国各地で行われている集会だからか、進行の人が「ここは徳島なので」と米津玄師の曲を流したりなど地域色を入れていたのも印象的だった。

SNS等では伝わらない人の思い

デモに参加している人たちは、真剣に「戦争反対」、「憲法まもれ」と訴えていて、今の社会、政治に対して

危機感を感じているのだと伝わってきた。

今年2月に行われた衆議院議員選挙の時、私の周りにいる人たちと選挙について話をしたら「徴兵制になるかもしれないけん怖い」「戦争をさせないために今回の選挙が大事」など、普段そんな事を言わない人たちも自民党政治に危機感を持っていた。SNSなどネット上での人気や、新聞等では自民党圧勝と出されていたが、私の周りの雰囲気とは違うと感じていた。その時、結果と雰囲気とここまでは違うのかと驚いたが、今回のデモでもメディアが伝えている高市政権人気と、デモの参加者の雰囲気はあまりにも違いがあり、選挙の時と少し似たような感じを受けた。

それでも、デモ行進をしていると、学生っぽい若い人が、デモの「コール」を一緒にしてくれたりした。そういうのを見ると、これがシュプレヒコールとは違うノリのいい「コール」やペンライトのおかげなのかもしれないと思った。私自身は、シュプレヒコールの方が気合が入るといふ思いもあるが、若者に受け入れられやすいのは、今回のコールだろうと思う。

今後、労働組合が、今回のような市民運動と、どうつながっていくか、私の中で大きな課題だと感じている。

（ふじかわ まき）